
IS インフィニット・ストラトス 外巻

日南六町

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS インフィニット・ストラトス 外巻

【Nコード】

N1402Y

【作者名】

日南六町

【あらすじ】

IS 四巻 恋に騒がす六重奏で一夏たちが夕食の買い出しに行った時を想像で描いたものです。

今度出るOVAにこのシーンがあったら消すことも考えます。

（前書き）

千冬さんが山田先生と話をしている間の出来事です

ある夏休みの日の夕方……とあるスーパーでは異様な雰囲気が出
込めていた……

それはある人物たちを見ての事だった。スーパーの中にいた客や従
業員のほとんどの視線の先にいたのは……

「そういえばセシリアとかラウラとかスーパーってきたことがある
のか？」

「わたくしはデパートとかが多いのでこういう所は初めてで……」

「私もつい最近までは行ったことがなかった」

一夏たち専用機持ち6人だった。

夏休みも佳境に入ったある日、全員が一夏の帰省中に突撃訪問して
来ていた。あれやこれやと過ごしているとすでに夕方になっていた
ので夕食を一夏のために全員で作ることとなった。そのための材料
探しにやってきているのだが……

ザワザワ……

何やら周りが騒々しい。しかしそれを全く気にせずに一夏はカート
にカゴを上下に入れた。

騒々しい原因がわかっていないのは一夏だけのようで……

何せ美少女が五人（しかもいろんな種類）が一斉に現れたんですから……そりゃ騒ぎにもなりますよ……

向こうでは部活帰りと思われるナンパ高校生五人組が品定めをしているようで……

「うわー……レベル高ー」

「あの男ハーレムじゃん……うらやましい……」

「俺あの銀髪の子がいいな」

「俺はショートの子がいい」

「あつちのロングの子も捨てがたい……」

「なんとしても連絡先を掴むぞ！」

「……おー！」「……」

もちろんこの会話は一夏たちには全く届いていない。

一方の一夏達……女子ズがメニューのための食材探しを開始していた。

まずは鳳鈴音の場合……

「えーと……いるのはジャガイモと人参と玉ねぎと……」

手一杯に必要なものを持つ鈴。するとそこに現れたナンパ高校生B

「君、重そうだね？ 持ってあげようか？」

本人いわく最高の決めポーズを決めるナンパB。しかし……

「はあ？ 何言ってるの？ 重くもないのに持ってもらった必要なんてないし。あんた何様のつもり？」

鈴にバツサリと切り捨てられる

「で、でも……」

「うっさいわねー。しつこいのは嫌われるわよ」

「……………」

食い下がろうとしたが失敗。

続いてセシリア・オルコットの場合……

「あら……トマトが足りませんわ」

野菜売り場に戻るセシリア。トマトを見つけて取ろうとしたとき

「あっ……………」

ナンパ高校生Eも手を伸ばしてきた。どう考えても不自然だが。

「あ……これどうぞ……」

「そうですか。もらっておきますわ」

「で、できれば君の連絡先を……」

「島国の凡人に渡す連絡先などありませんわ」

一刀両断……

続いてラウラ・ボーデヴィツヒの場合

（おでんとは串に刺して煮るものなのか……串を買っておく必要があるな……）

また変な日本の知識を教えられたラウラ。まあクラリツサが原因だろうが。

串を手に入れたラウラに近づくナンパ高校生C

「君、これから俺とうまいキリマンジャロ飲みにいかない？」

旧式の口説き文句とおぼしきものでラウラに声をかける。しかしラウラは……

「はっ、貴様ごときにコーヒーの違いが判るとでも？」

「え？ え……そりゃ……」

「消える目障りだ」

「ひっ！」

持っていた串の袋を破って相手に突き付けたラウラだった……

続いてシャルロット・デュノアの場合……

シャル（一夏の言ってた大根おろし入りのから揚げを作る）

スーパー内の精肉店で鶏肉を買う。そこへ現れたのはナンパ高校生D

「彼女の分、全部払うよ」

そういつて五千円札を置くナンパD。しかし、シャルはそれを完全スルーして代金を払い終える。

「お、おい！ 君！」

「これ以上すると警察に通報するよ」

笑顔の向こうにとてつもない殺気が渦巻いていた。

最後に篠ノ之箒の場合……

「いいカレイはないものか……」

カレイを品定め中の箒。するとその後ろにナンパ高校生Aが……

「いい男はいかがかな？」

これまた本人曰く「これで落ちなかった女子はいない」と豪語しているやり方だった。

グイッ

「な、なんすんだ！」

ナンパAが振り向いたそこには

「俺の仲間に何やってんだ！」

一夏がいた……これを見た箒は

（俺の箒に何やってるんだ！ かあ……あいつめ！ あいつめ！）

暴走特急が急発進で発車していったとか。

その後六人は会計を済ませ織斑邸へと戻っていった。

無論、このナンパ五人組が他の買い物客に白い目で見られたという事は言うまでもない

（後書き）

どうでしょうか？ 感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1402y/>

IS インフィニット・ストラトス 外巻

2011年11月11日13時19分発行